

【学生による ESD 学習支援活動】
奈良市立東市小学校 野外活動支援 報告書

教育学専修 学部 1 回生 岩城雄大

1. 実施日 令和元年 9 月 19 日 (木)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 谷垣徹 (大学院生)
仲村幸奈、岩城雄大、柳川莉沙 (学部生)
奈良市立東市小学校第 5 学年児童、引率教員 約 50 名

4. 活動支援内容

令和元年 9 月 19 日 (木)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立東市小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 4 名がその支援に当たった。1泊 2 日のうちの主に 1 日目に関わった。

今回の野外活動支援を以下の 2 点で振り返る。第 1 に事前指導の重要性、第 2 に子どもたちの集団行動の補助についてである。

第 1 に事前指導の重要性である。今回は東市小学校へスタントの事前指導に行っていたため、子どもたちもやる気になっていたという話を教頭先生から伺っていた。実際、当日のスタントは子どもたちが班ごとで



キャンプファイヤーの様子

様々に工夫を凝らした良いものになっていた。一方で小学生への事前指導はさることながら、学生の準備やゲームについての事前指導の重要性も感じる事となった。私は一人でゲームを担当することになり、一人で楽器を演奏しながら、指示を出さなくてはならず、至らないところが多かったのだが、事前に指導を受けておけばそのようなことにはならなかっただろうと思い、悔やまれる。今後は計画性を持って企画を出した段階で助言をいただき、改善していこうと考えている。

第 2 に子どもたちの集団行動の補助についてである。野外オリエンテーリングにおいて、班の中の子供たちが分かれ、別行動をしてしまうということがあった。計画性があって別行動しているのであれば班であることを意識した有益な行動であるが、喧嘩別れのような分かれ方であったため、どうすればよいのかわからなかった。その子たちは小学校の先生と話をし、その後は班員が全員で活動していたので安心した。私はこのような状況になった子どもたちを良い関係に持っていけるようなスキルを身に付けたいと考えている。

今回の野外活動は、子どもたちだけでなく私たちも新たな気づきや学びがあった。キャンプファイヤーで使う歌が変わったとしても気分を盛り上げることができるということに気づいたり、何回もゲームマスターやスタントマスターを務めることで要領などを学んだりすることができた。私の学びは「キャンプファイヤーでピアノやハーモニカを演奏しながらスタントやゲームを進めるのは難しいのでギターを使う方が好ましい」ということと、「歌う方向や呼びかけの方向を火の向こうにいる人たちに向けてと声がすべての人々に通る」ということだ。これからも活動をつづけ、「キャンプファイヤーとはこういうものである」という常識も知りながら、私独自のスタントやゲームも考えて実践していきたい。